

詩

製金塊裡光鮮。漢竹山松帶瑞烟。  
不用天涯寄鴻鵠。新聞紙上賀新年。

## 時事新報

大人拜崇は已むの日ある可し  
獨逸の老相ビスマルクが歐洲和戰の全權を握るよ至りし其山來を尋ねるに今を距る二十八年以前に丁抹と戰争してレオス・サボツグホルスティンの二州を併せ其後六年よしてサドワの役より地利を敗り北獨逸諸州の同盟を休め後又四年にして佛蘭西より勝ちアルサス、ローレーンを奪ひて獨逸

帝國を建て立國の基礎發よ初て開うして爾來と稱して西洋新聞が其權力の大なるを示す爲めに描きたる漫畫なれども歐洲列國の關係を視るよ於ては一目判然たりと云ふべし甲の圖はヒューマンとして笑を呈し右手を以て玩具の滑車を操る處にして佛獨逸境の四個の人形は平和の衣服を着け佛境二人は左右の兩端よ而して各々相手よく露露二人は

相對して相和し風針の方位和よ向て極なり即ち獨逸相結合當時は

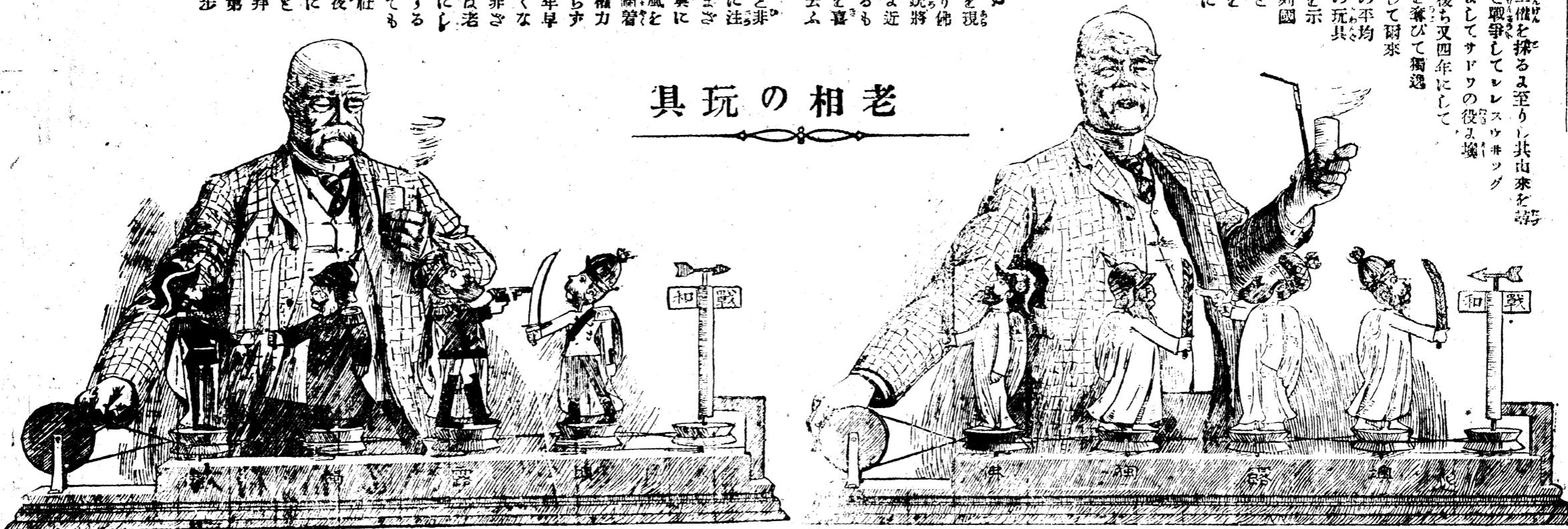
歐洲の平和を維持するふと容易なるの模様を寫したる者あり然一轉するときは彼の入形は反對の相を現はし平服戦ひ対して戎裝の武人と焉り佛獨逸は動を以て互に直接し露の短銃將

さえ發せんとして境の白刃との銃口よ近し和戰の機運唯一老翁の指端よ存するものにして其一舉一笑以て全歐洲の人を喜ばせしむるの事情寫し得て妙ありと云ふ可し

今の歐洲人かビスマルクを畏畏すると非常に己れを保ち己れを重んずるの氣風を増すに至る時は功名虛聲を以て世を曉着するの手段行はれずして英雄豪傑の權力も俄然地よ落つるふとなしと云ふ可らず近來西洋新聞のする所を見るに本年早々ビスマルクは職を辭して閑散よ就くなれども抑も既に斯る風聞の起りたるは老翁の權勢も昔日の如くならざる所以にして大人拜崇の風習も亦將に衰へんとする

體左に非すや或は今日は然らずとしても其風習は翁が殘餘の生命と與に歐洲社會に終を告ぐる所である可しナドリの夜打ちセダンの朝掛け、煙炮硝雨の間に馳騒したる武勳戰功も二十年後の今日に發したる結果あれは我輩は文明進歩の一端として之を待つ者なり

## 老玩の具



## 時事新報

雜

○國旗 或る外國人が我國の日旗を稱美して若し其旗

章を勝ふふと得ば幾百萬金も寄むに足らずと云ひたる事ありと聞きぬ自地に旭を染出したる其模様の高尙にして然かも壯麗あるは實に外人が賛美するも無理あれども國旗よ付て思ひ出せし事あり過る千八百七一年獨逸帝國の基礎未だ定らざりし以前は普魯西の國旗は黒と白、サキシニーの國旗は緑と白、バウアリヤは藍と白等今獨逸の聯邦中の王國以下苟も自治の権理を有するものは最爾たる一小市に至るまで各々二個の色より成立てる其邦其市の旗章ありて之を一所に集む時は恰も手遊品の色目鏡を見るよりも何は其色の混雜繁多なる程ありし然るよ千八百七一年帝國の組織成ると同時之を代表すべき國旗を定むるの必要起りければ茲に大と困難を感じたり其故如何と云ふに諸邦市各々固有の旗色を新帝國の旗色よ加へんと欲して更に他の由縁なき色を用ふるふとを承諾せざればあり故に擬定委員の調査に附したる原案旗章の圖は得も云はれぬ奇異の模様よして各邦各市より出席せる委員は其不都合を承知しながらも去とて自邦自市の旗色を棄るを肯せざれば到底協議の經るべき見込つき折柄普魯西の委員は起つて自説を主張して同州の旗章黒と白へ棄てざるべからざるが故に議論益々喧しきりしが其内ヤ、サキシニー等を始めどし他は残らず己れの旗色を到底己れの希望を達するの見込みを信じて普魯西委員と一致するもの追々增加し終に今日世人の見る如き旗章よ定りたるものよし

○日本の貿易は英國の三十五分一 儒教なる帝國領事より其筋へ達したる報告又據れば明治二十一年七八及び九の三箇月間を合計したる英國貿易の高は八億三千七百十萬六千九十九圓ありと云へば之を同じく二十一年の右三箇月間に亘れる日本貿易の高僅に二千三百八十九萬九千三百十八圓み比するときは無慮三十五回強の大數なり英國貿易の二十年中七八九月の總計は七億九千一百五十九萬八千二百六十圓よして前紀二十一年七八九月の高は前年より增加するふと四千二百五十萬七千八百三十圓なれば五分以上にして假りに此割を以て積相似て東洋の英國とも稱さるべき日本にして貿易に盛りやし前途みぞきふとあれば遂に落靡するにも及ばざるべしと云へり

○獨逸麥酒の輸入を禁ず 獨逸は最も麥酒の醸造に有名ある國よして日本にも其輸入高中々多きふとなれども遠國に送るス裏賣腐敗を豫防の爲めとアルセニックアシットを調合するものゆゑ夙より獨逸の國に輸入を擋け本元獨逸にても寄りくへ加葉の胃腸を調合せを

論する者輩出して遂に醫學社會の一問題となり前議久しくりし後アルセニックは胃腸に害あるべきものあらすと云ふと其決論を信せずむるより至りたりと云ふと改稱する等な

らずと云ふと議定を其決論を信せず

むるより至りたりと云ふと改稱する等な

前十一時隨行員及

○後藤伯漫遊日録

二十一年伯の

伯の如き當て砲

越え水見に廻る山

馬上塑を横へて電

車と駕して途よ

車と駕して途よ